

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	あいちけんりつ じしゅうかん こうとうがっこう				②所在都道府県	愛知県
27～31	①学校名	愛知県立時習館高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	第1学年 321名 8クラス	第2学年 322名 理系5、文系3クラス
普通科	321	114	123		558	第3学年 312名 理系5、文系3クラス	
		文系	文系				
⑥研究開発構想名	「日英独高校生国際シンポジウム等によるグローバル・リーダーの育成」						
⑦研究開発の概要	時習館SGHは、学校設定科目による「カリキュラム開発」、国内の大学や企業と連携した探究活動やインターンシップを実施する「SGH発展学習」、さらに、英国、ドイツの姉妹校や大学、国際機関、企業と連携した国際シンポジウムやフィールドワーク等を実施する「SGH海外学習」の3つのカテゴリーで研究開発を行う。						
S G	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校はSSH、コアSSH及びSSH人材育成重点枠の指定を受け、全校生徒を対象に科学技術立国日本の将来を牽引する人材の育成及び科学技術教育とグローバル教育の融合に関する研究開発に取り組み、様々な成果をあげてきた。今回の研究開発では、本校校訓である「自考自成分」の精神を実践し、「問題発見・解決能力」「論理的・批判的思考力」「英語によるプレゼンテーション能力」「異文化理解力」等の国際的素養を身に付けた、日本の未来を創造的に描くことのできるグローバル・リーダーの育成を目指す。また、グローバル・リーダー育成のための海外連携の先進校及び英国・ドイツの大学、企業等との連携の日本拠点校としての役割を果たし、愛知県内外の高校と協力して本事業の拡大・推進を図る。</p> <p>これらを踏まえて、研究開発目標として以下の6点を設定する。</p> <p>① アジアの中の日本を知る ② 世界の中のアジア及び日本を知る</p> <p>③ 日本の未来を創造的に描く ④ Solution-based English の実践</p> <p>⑤ 本校の校訓である「自ら考え自ら成す」の精神の実践</p> <p>⑥ ルーブリック等のパフォーマンス評価の研究及び確立</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>SSH事業では、英国・ドイツの姉妹校との「日英独3か国の高校生による科学技術に関する合同研究発表会」の開催等により、科学技術創造立国日本に貢献できる人材の育成において生徒の意欲が飛躍的に高まるなどの成果を得た。また、「英語村」や学校設定科目の中でのディベート等の実施で、「論理的思考力」「コミュニケーション能力」等の育成を図ってきた。しかし、これらの取組では、日本の伝統文化を正しく理解し、それを外国の人々に的確に発信することや、グローバル課題に関心を抱き、国際的な舞台上で活躍することを将来の目標と考える人材の育成は、十分にできなかった。そのため、探究活動の中でこれらを身に付けたグローバル・リーダーを育成する。今回の研究開発では仮説として以下の3点を立てる。</p> <p>【仮説1】カリキュラム開発等により、発展的な学習、課題研究、言語活動を充実させることで、「日本の伝統や文化に関する理解力」「アジアにおける日本の立場の理解」「論理的思考力・批判的思考力」「問題発見・解決能力」「プレゼンテーション能力」等を向上させることができる。</p> <p>【仮説2】国内の大学や企業との連携によるグローバル課題の探究で、「世界の中の日本」や「グローバル社会における日本の役割」を深く理解するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させることができる。</p> <p>【仮説3】英国・ドイツの姉妹校との共同研究や国際シンポジウムの開催や、英国、ドイツの大学や研究機関、国際機関、企業とのワークショップ等の実施で、英語によるコミュニケーション能力の向上、さらに、国際的な舞台上で活躍しようとする意欲・理解・能力等を育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p>					

	<p>ア S G H部員、高大連携事業に参加した生徒、本校教員が様々な場面で行う人的普及 イ 成果報告書、ホームページ、S G H成果発表会による普及 ウ 学校設定科目を実施する際に開発する独自教材といった成果物による普及</p> <p>(1) 課題研究内容 課題研究テーマを「共生社会と教育」「歴史と文化」「経済発展と環境」「国際政治・外交」「日本の貢献・国際協力」の5分野に設定し、以下の内容でグローバルな社会問題やビジネスに対する関心を高め、問題を発見・解決する探究的な学習を通して、日本の未来を創造的に描くことのできるグローバル・リーダーの育成をめざす。 【内容】「学校設定科目」「S G H海外学習」「S G H発展学習」「S Gカルチャー」「S G H特別講演会」</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 【実施方法】 課題研究は大学・企業等の専門家からの講義や外部講師等による個別指導、校外学習・海外研修等を通して実施する。その成果はまとめて発表し、国内外に発信する。 ・学校設定科目「S Gアジア探究」「S G国際探究」「S Gグローバル社会探究」「S S&S G L T C」「S S&S G E S P I、II」 ・「S G H海外学習」 英国及びドイツの姉妹校との連携（「日英独高校生の国際シンポジウム」の開催、「海外研修」における課題研究成果の発表、「事前研修」）、英国及びドイツの大学、国際関係機関や企業等との連携（「海外研修」でのフィールドワーク・ワークショップや大学教員等によるレクチャー等） ・「S G H発展学習」 国内の大学、企業、国際関連機関との連携（大学教員等による発展的講義、大学教員・企業人等の指導のもとでの探究活動、ワークショップやインターシップ等）、大学の留学生等とのグローバルな課題についてのディスカッション、各種コンクールへの積極的な参加 ・「S Gカルチャー」 大学、企業等の専門家や外部講師による講義や指導・助言を受け、フィールドワークを行うことで、興味・関心を喚起させ、探究的な学習を深める。 ・「S G H特別講演会」 大学・企業等の専門家を招き、探究的な学習に対する意欲を喚起させ、グローバルな問題やビジネスについての理解を深める。 【検証評価】 ・ 考査問題、課題レポートやプレゼンテーション資料の内容、プレゼンテーション、アンケート調査、ループリック等に基づく生徒の変容、教員の変容を分析して行う。 ・ S G H運営指導委員会の評価等</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「総合的な学習の時間」2単位－「S S&S G L T C」2単位中1単位、「情報の科学」2単位中1単位を充当する。特例ではないが、「英語表現I」2単位－「S S&S G E S P I」2単位、「英語表現II」4単位－「S S&S G E S P II」4単位（第2学年2単位、第3学年2単位）を充当する。特例はないが、「現代社会」（2単位）を代替措置として1年生全員を対象に「S Gアジア探究」（2単位）を充当する。国際分野の内容を大学等外部機関と連携した探究活動により、生徒の論理的思考力や問題解決力を向上させることを目標とする。</p>
⑧ -2 課題 研究	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 【研究開発の内容】 ・学校設定科目「S G日本文化探究I、II」で実施。 【実施方法】教材開発、指導法の工夫、大学等との連携、教科を超えた教員の連携 【検証評価】 ・ 考査問題、課題レポート、アンケート調査、ループリック等から生徒、教員の変容を分析して行う。 ・ S G H運営評議員会の評価等</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 「国語総合」2単位－「S G日本文化探究I」5単位中4単位を充当する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ・オーストラリアの大学や高校との連携（グローバル問題についてeメールで情報交換、テレビ会議を実施してグローバル問題について発表・ディスカッションを実施） ・「英語部」を「S G H外国語部」に改編、「S G H歴史部」の設置 ・ボランティア活動への積極的参加 ・文系を「グローバルコース」、理系を「サイエンスコース」に改編</p>
⑧ -3 上 記 以 外	
⑨その他 特記事項	<p>「情報の科学」2単位－「S S&S G L T C」1単位、「S S総合数学」1単位を充当する。</p>